



若寺族婦人研修会

2017(平成29)年8月8日(火) 佐波組浄土寺



第 20 号

山陰教区
寺族婦人会連盟

題字：鷺谷良子



心豊かに生きることのできる
社会をめざして

山陰教区教務所長 高橋 格 昭

今年の五月三十一日、第二十五代専如ご門主の「伝灯奉告法要」が、お陰さまで無事に円成しました。皆さまと共にご勝縁にあえたことを感謝し、御礼申しあげたいと存じます。

専如ご門主は、ご親教『念仏者の生き方』において、「仏さまのような執われのない完全に清らかな行いはいけません。しかし、それでも仏法を依りどころとして生きていくこと

で、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです」と、具体的な生き方についてご教示くださいました。

さて、早いもので戦後七十二年が経ちましたが、「平成」の時代も後わずかです。戦後間もない頃から、「三種の神器」や「三C」といった言葉に象徴されるように、便利で豊かな生活を求めてきました。そして今では、家電や車も含め世の中全てが、人がいなくても動いていく時代になりました。驚くばかりです。

しかし反面、失った事も多くあるように思います。昔、物が十分に無い時代、家族は何でも分け合って生活していましたが、今は、「足りなかつたらコンビニへ行つて買っておいで」と、親が言う時代だそうです。分け合っていたなかに、思いやりや互いを敬う心が育まれていたのではないかと、懐かしく思います。

哲学者の唐木順三氏(1904～1980)は、「近代文明は、人間から次第しいに途中を奪う方向に動いている。途中という距離を奪って得た便利というものと、途中を奪ってしまった味気なさとかくらべれば、はたしてどちらが幸せか疑問である」という言葉を残しておられます。

現代は人と人との関わりが希薄になりましたが、かつては「途中という距離」のなかで、周りの人や様々なものに支えられているという、喜びや感動をうけとることができたのではないかと思います。

「自己共に心豊かに生きることのできる社会の実現」に向けて、共に精進させていただきたいと存じます。

「若寺族婦人研修会」に参加して

大田中組明顕寺 初田 香奈子

八月八日(火)、山陰教区佐波組浄土寺様を会所として夏休みであった娘、息子と共に初めて参加させていただきました。

今回は、龍谷大学宗教教育部の本願寺中央日曜学校からも五名の講師の方をお迎えし、「子どもになつてサマースクールを体験しよう」と、「バルーンアートを楽しもう」という内容であったために、ワクワクしながら美郷へ向かいました。

境内にはキッズサンガののぼり旗が立ててあり、すぐに子どもたちは、「キッズサンガだ」とわかったようでした。受付をすると、キッズルームを用意していただいております、初対面の子さんともすぐに仲良くなつており安心して参加できました。

講習は、まずはわたしたちが童心に帰り、若い講師の方が先生となり始めました。お話されてると、気になるのか自然と子どもたちも一緒に参加し、難しい話も分かりやすく話をしていたいただき、リズムやゲームの時には初対面の方との交流ができました。次に、人形劇を見せていただき、舞台裏や人形の動かし方を教えていただきました。しっかりと体を動かした後には、

は、手づくりの山くじらのカレーライス、サラダ、デザートをととてもおいしくいただき、シートペーパー、レシピも記念に頂戴しました。

昼からは、手づくりされた地獄の話の紙芝居、バルーンアートの講習会などがありました。バルーンアート講習会では、風船のため割れて大きな音が出て苦戦しましたが、コツを教えてもらい「犬、お花、剣」などを製作することができました。お土産には、帰宅後もバルーンアートを製作できるようにと、バルーンを用意していただきました。

寺に身を置く私ではありますが、まだまだ勉強不足で子育てをさせていただいておりますので、今回の研修会のご縁を大切に、子どもたちと接していきたいと思えます。

このたびの研修会を担当された皆様のおもてなしに心より感謝申しあげます。ありがとうございました。



大田中組浄土寺 大原 美穂

若寺族婦人研修会に初めて参加させていただきました。

日曜学校の体験ということで、基本的な作法を教えて頂き、また様々なゲームやレクリエーション、クオリティの高い人形劇など、一緒に参加させて頂いた小学校二年生の娘と共に楽しむことができました。

ゲームでは頭や体を使ったり、他の方と協力したりと、普段メディア漬けの私たちにとつて、よい経験になりました。



私が子どもの時には、自坊でも日曜学校があり「色々な経験をしたなあ」と思い出しました。今、遊びに必要な三つの間【仲間・空間・時間】が足りないと言われていた子どもたちにとって、日曜学校は様々な経験が出来る大切な機会だと改めて感じました。研修を通してとても貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

台掌

寺族婦人研修会に参加して

千須賀組 西念寺 太田 時子

小雨の中で車で一時間余り、久しぶりに三瓶の「さひめ野」に到着。山陰教区寺族研修会に参加させていただきました。九月五日・六日の一泊研修で、「日々の暮らしの中でのカウンセリング」を坊主として人々の悩みに応えるにはというテーマで、武田正文先生（邑智東組高善寺・臨床心理士・スクールカウンセラー）の講義をうけました。以下感想を主体に研修の一端を述べさせていただきます。

研修第一日目は「私の心を知る」講義とワークシヨップ



研修内容は日頃の私が未解決のままになっている課題や悩みに分かり易く回答していただく結果となり、ありがたいものでした。その一例を挙げますと、日頃の私は、「聞かれた質問」が大切と聞かされていても、どうしても出来にくく、いつも「閉ざされた質問」になってしまっていたのですが、武田先生の講義で「相手の方の気持ちをわかってほしい」という話を聞いたら途端に、「ああ、そうなんだ。これだ！」と思いました。苦手だ苦手だと自分の思いばかりで過ごしてきた自分に気付かされ、その後の先生の講義をとてもしきり聞くことができました。以下参考になったポイントをいくつか挙げてみます。

「目の前の人に向き合って寄り添う」
「目の前の人を理解する…何に悩んでいるか」
「心の底から思っていることを口に出すと相手に伝わる…純粋性」
「純粋性の低い人の言葉は届かない」
またクライアアントへの対応方法では「リストカットに対して…行為を受けとめ、けとめることではなく感情を受けとめる」

「認知症の方…相手の言葉を使う」
「うつ病の方…相手のトーンにあわせる…しゃべり方」など。

その他興味深かった内容として「目の前の人の心を理解するには…自分の性格を理解する…私の心を知る」ことの大切さを話され、「性格は変えられる…自分はこの風になりたい」と意識していくことが大切」と分かりやすくご講義くださいました。そして、ワークシヨップ「私の心を知ろう!!」での「自分の性格を知るためのチェック」は面白く思いました。当日はなんとなく人を意識して多少かつよくチェックしたかなと思ひまして、帰宅後に一人でチェックしてみたりしました。

研修第二日目は「浄土真宗と私の心」と題しての講義でした。

平素自坊での法座の際にはゆつくりとお聴聞は出来かね、あれこれと気になることがあつて、体は法座の席に座つていても心は外にという私です。で、この度は何の心配もなくご法話を聴くことが出来、とても有難く思いました。

今回の研修会参加者は一五組から三五名でした。一部屋二名から五名に分かれての宿泊でしたので、それぞれ楽しく親睦を深められたように思います。私の部屋では、坊主として生活する中での色々な悩みを打ち明けたり、遅くまで会話が弾み真夜中の入浴となりました。他の部屋でも夜遅くまで



話に花が咲いて楽しかったと伺いました。何はともあれ、今回の研修会に参加できたことは、私にとりましては最高に意義深いものとなりました。今回学び得たこと、感じたことのすべてがこれからの坊主生活に生かされることと思っております。

今回の研修会を開催されるに当たりましては、教務所長様はじめ、事務局様、委員長様、担当ブロックの大田中組をはじめ石東ブロックの皆様には大変ご苦労おかけいたしましたことお礼申しあげます。

また、音楽を担当してくださいました先生、心のこもった歌唱指導をしてくださいまして有難うございました。本当に楽しく、有意義な研修会であったとありがたく思っております。有難うございました。

鳥取県中部地震体験記

鳥取伯耆組覺善寺 千石 喜代美

鳥取県中部の湯梨浜町は、震度二程度の地震は時々発生していた。

当日午前中も震度四のやや激しい地震があり恐怖を感じたが、被害もなく安堵して昼食を済ませた。足治療後の老僧は早々にベッドで休んでいた。私はお茶を飲もうと、コップを手にしたその瞬間だった。何とも表現できないざわめき、床はぐらぐら、食器戸棚はガチャガチャと鳴り、何だこれは、地震だ危い、外に出なければと直感した。「おじいさーん」と大声で呼びかけ飛び出した。主人の近くの出口に回ったところ真青な顔をして這い出して来た主人を見てホッとすると同時に、歩行は無理だと感じた。幸いにも物を運ぶ台車が近くにあり「これに乗って」と促し裏の畑に避難した。余震は絶えまなく、大きな庫裏の屋根も、地面も、生垣も波打って揺れ、怖さと寒さに震えていた。となりの保育園からは、保育士に誘導されたり、乳母車に乗せられて避難する様子が見えた。午睡中を襲われたので事態が理解できないようだ、しかし普通ではないことを体感しているのか泣く子は一人もなく指示に従っていた。急いで衣服や履物を持ち出し子どもに手ぎわよく着せている。「全員無事」の声が聞こえた。我にかえった子どもたちは寒

さと不安の中、空地で迎えを待った。やがて親や家族がかけつけ皆ホッとした様子だった。しばらくして、田畑や、職場から帰って来た人達からけが人もなく、村の人々皆無事であることが告げられた。建物や家具等は被害が多く出た。屋根瓦や塀の崩れ、寺の灯籠の倒壊等時間がたつにつれ危険箇所もあきらかになった。相次ぐ余震に怯えながらも、あちこちから救援物資や水の提供を受け、有難い有難い、と感謝しながら頂いた。以後およそ一ヶ月余り、安全と思われる一室で、家族八人寝食を共にしお互いに気配りをし助け合ってすごし災害の中にも、ほのぼのとした家族の温もりも感じた。今はまだどの家も修復途上だが、前を向いて頑張っている。

災害への備え、身の安全の確保など日頃から家族で話し合っておかなければと強く感じました。御支援下さった方々、大変有難うございました。合掌



被災して得たもの

鳥取伯耆組妙寂寺 内藤 照美

鳥取県中部地域の屋根には、まだブルーシートがかかっている家が多々あります。

昨年十月二十一日の鳥取県中部を震源とする地震時には、震度六弱という今迄経験したことのない大きな揺れと、物の落ちる音のなか、恐怖で声も出せない状況でした。揺れがおさまり、急いで境内に避難致しましたが、多くの墓石が倒壊した光景を見て、只々呆然とするばかりでした。余震が続き、庫裏で休む事も出来ず、車中泊や境内にテントを張り背中で余震を感じ、又余震により墓石の落ちる音を聞きながらの不安な生活が十日間続きました。

余震が続くなか、教務所長様をはじめ、職員の方々又組内の方々が様子を見に来て下さり、まるで子どもたちを心配して、実家から親が駆け付けて来て下さった様な……そんな温かい心持ちになりました。教区内の方々又有縁の皆様からも、励ましのメッセージや心のこもったご支援、義援金等を頂き、感謝の念でいっぱいのごさいます。誠に有難うございました。

被害状況につきましては、五年前、本堂内に耐震工事をして頂いたことも有り、本堂屋根は瓦一枚落ちる事は有りませんでした。内陣の損壊、山門、外壁、書院、庫裏等に被害が見ら

れました。

この度の事で、これまで報道等で、色々な地域の災害を目にしますと、大変だろうなあ、気の毒に……と思つて見ておりましたが、まさに人事として見ていた自分に気付かされました。又色々不自由を感じる事で、これまでの生活が当たり前ではなかったという事、多々修復が必要となった現状を見て、平素より寺族はもとより総代さん方と災害時の手立てをしつかりと検討し、話し合っておくことが必要だということ等を学ばせていただきました。大変な体験を致しましたが、大いなる自然のなかで生かされていることをしみじみと味わい、同じ思いをされ被災されたご門徒の皆様方と共に手を携えて歩ませて頂きたいと思っております。

ご心配又ご支援を頂きました有縁の皆様方に重ねてお礼申しあげます。

合掌



2017（平成29）年度「ダーナ献金」のご報告（現況）

若寺族婦人研修会・寺族婦人研修会でのダーナ献金の合計は、82,846円でした。それぞれの災害に対し見舞金を送金させていただきましたことご報告いたします。

名 称	金 額	送金先
平成28年度熊本地震災害	2万円	宗派たすけあい運動募金
鳥取県中部を震源とする地震	2万円	鳥取因幡組・鳥取伯耆組
平成29年九州北部豪雨災害	2万円	福岡教区教務所・大分教区教務所（各1万円）

2017（平成29）年度 東北ボランティアセンターお茶会支援

（若寺族婦人研修会・寺族婦人研修会でのダーナ献金・予備費より）

2017(平成29)年11月24日送付内容

品 名	個 数	品 名	個 数
ぷるり三瓶ブルーベリー他	6	どじょうすくい饅頭	2
赤てんせんべい	2	石見銀山草だんご	2
石見銀山酒まんじゅう	3	梅しそ巻き	3
石見銀山チョコサンドクッキー	2	キットカット	3
島根ゆず蒸しケーキ	2	ミルクティー	2
渚のひびき紅たこせん他	4	紅茶	2
しまねっこクッキー	4		

合計 25,051円（送料込）

福岡教区・大分教区からの礼状2通

東北ボランティアセンターからの礼状



2016(平成28)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計決算

歳入の部

款 項	費 目	決算額	予算額	対比△減	説 明
1	会費	490,500	489,000	1,500	
1	本年度	490,500	489,000	1,500	1,500円×327単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	1 参加費	120,000	120,000	0	寺族婦人研修会
5	1 雑収入	86,652	6,247	80,405	寺族婦人研修会
6	1 前年度繰越金	214,753	214,753	0	
	合計	1,111,905	1,030,000	81,905	

歳出の部

款 項	費 目	決算額	予算額	対比※超過	説 明
1	1 研修費	151,701	350,000	198,299	寺族婦人研修会
2	1 会議費	283,440	340,000	56,560	監査・委員会・常任・編集
3	1 事務通信費	44,422	100,000	55,578	郵券料
4	1 教化費	91,800	70,000	※21,800	寺婦のひろば
5	1 回金	50,000	50,000	0	特別会計への回金
6	1 諸費	0	30,000	30,000	
7	1 予備費	144,794	90,000	※54,794	東北28,142円、熊本86,652円、鳥取30,000円
	合計	766,157	1,030,000	263,843	

歳 入	1,111,905
歳 出	766,157
差引残額	345,748

2017(平成29)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計予算

歳入の部

款 項	費 目	29年度予算	28年度予算	対比△減	説 明
1	会費	490,500	489,000	1,500	
1	本年度	490,500	489,000	1,500	1,500円×327単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	特別会計より回金	0	0	0	※項繰上
1	教区より回金	0	0	0	※費目削除
4	1 参加費	810,000	120,000	690,000	研修会参加費
5	1 雑収入	3,752	6,247	△ 2,495	預金利息等
6	1 前年度繰越金	345,748	214,753	130,995	
	合計	1,850,000	1,030,000	820,000	

歳出の部

款 項	費 目	29年度予算	28年度予算	対比△減	説 明
1	1 研修費	1,100,000	350,000	750,000	寺婦・若寺婦研修会
2	1 会議費	340,000	340,000	0	代表者会・常任・正副委員長
3	1 事務通信費	100,000	100,000	0	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	95,000	70,000	25,000	寺婦のひろば
5	1 回金	50,000	50,000	0	特別会計への回金
6	1 諸費	30,000	30,000	0	慶弔等
7	1 予備費	135,000	90,000	45,000	
	合計	1,850,000	1,030,000	820,000	

2016(平成28)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計決算

歳入の部

款	費目	決算額	予算額	対比△減	説 明
1	前年度繰越金	402,163	402,163	0	前年度繰越金
2	回金	50,000	50,000	0	一般会計からの回金
3	雑収入	0	837	△ 837	
	合計	452,163	453,000	△ 837	

歳出の部

款	費目	決算額	予算額	対比※超過	説 明
1	翌年度繰越見込金	452,163	453,000	837	翌年度繰越金
2	回金	0	0	0	
	合計	452,163	453,000	837	

2017(平成29)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計予算

歳入の部

款	費 目	29年度予算	28年度予算	対比△減	説 明
1	前年度繰越金	452,163	402,163	50,000	前年度繰越金
2	回金	50,000	50,000	0	一般会計からの回金
3	雑収入	837	837	0	預金利息等
	合計	503,000	453,000	50,000	

歳出の部

款	費 目	29年度予算	28年度予算	対比△減	説 明
1	翌年度繰越見込金	503,000	453,000	50,000	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	503,000	453,000	50,000	

編集後記

○「ひろば」第二十号をお届けします。本号を発行するにあたり、御協力くださいました方々に感謝申しあげます。

○今年も災害の多い年となりました。「あたりまえ」と思っていた日常を突然無くされた方々のことを思うとき、御心痛の日々をお過ごしのことであるうとお察し申しあげます。

○皆様こそってお参りをなさいました本山伝灯奉告法要は五月三十一日に御満座となりました。ご門主様は法要の中で、「念仏者の生き方」を示されました。これからも有難さ、恥ずかしさ、勿体なさを心にかけ、もとより末通らない身ですが、寺婦として念仏者として、少しでも「愚」を慎む暮らしてあげたいと思わせていただきました。

(H・I)

